

第6回自然科学研究機構若手研究者賞を受賞

本研究所プラズマ加熱物理研究系の伊神弘恵准教授が、「静電波を用いた高密度プラズマの電子サイクロトロン共鳴加熱の研究」によって、第6回自然科学研究機構若手研究者賞を受賞しました。

この賞は、自然科学研究機構が、新しい自然科学分野の創成に熱心に取り組み、成果をあげた優秀な若手研究者を対象として授与しているものです。

伊神准教授は、大型ヘリカル装置（LHD）において、プラズマ外部から電磁波を入射して加熱する電子サイクロトロン共鳴加熱の研究に積極的に取り組んでおり、通常の電磁波が遮断される高密度プラズマにおいても加熱を可能とする手法を実証するなどの研究成果が評価されて、今回の受賞に至ったものです。

なお、授賞式と受賞記念講演が、6月11日（日）に、日本科学未来館・未来館ホール（東京）にて行われ、伊神准教授は「波動モード変換を利用した超高密度プラズマ加熱への挑戦」と題した記念講演を行いました。また、講演終了後には、研究に関係した品を用意したブースを設け、受賞者と来場者とが直接語り合う「ミート・ザ・レクチャラズ」が開催され、伊神准教授も講演に招待された多くの高校生らの質問に答え交流を深めました。これら一連のイベントには、一般の方々からも多数の参加がありました。



受賞者らの記念写真（伊神准教授は前列左から2人目）

市民学術講演会を開催しました

核融合科学研究所は、7月8日（土）にセラミックパークMINO 国際会議場（岐阜県多治見市）において、「チンパンジーの心 人間の心」をテーマに、市民学術講演会を開催し、多治見市、土岐市、瑞浪市を中心に約230名の方にご参加いただきました。

前半は、松沢哲郎京都大学高等研究院特別教授が、「互いを思いやる心の進化」と題して、講演されました。主な研究対象となったチンパンジーにちなんで「アイ・プロジェクト」と呼ばれる実験研究と、西アフリカの野生チンパンジー群を対象とした野外研究の双方を通じて、人間の心の進化的起源を実証的に探究する「比較認知科学」という学問分野を創出したことについて紹介されました。

後半は、竹入康彦所長が、「世界における核融合プラズマ研究の進展」と題して講演を行いました。講演では、核融合発電の原理や、1億度を超えるイオン温度を達成した大型ヘリカル装置（LHD）の最新の成果等、世界中で進む核融合プラズマ研究の現状について紹介しました。



松沢哲郎 京都大学高等研究院特別教授の講演



大学共同利用機関法人 自然科学研究機構

核融合科学研究所 発行

NIFS NEWS

No.236

2017年6,7月号

〒509-5292 岐阜県土岐市下石町322-6

TEL : 0572-58-2222(代) FAX : 0572-58-2601

URL : <http://www.nifs.ac.jp/>

E-mail : nifs-news@nifs.ac.jp

※過去のニュースはホームページにてご覧いただけます。

複写される
方へ

本紙に掲載された著作物を複写したい方は(社)日本複写権センターと包括複写特許契約を締結されている企業の方でない限り、著作権者から複写権等の行使の委託を受けている次の団体から許諾を受けてください。

一般社団法人著作権協会 〒107-0052 東京都港区赤坂9-6-41 乃木坂ビル3F

TEL:03-3475-5618 FAX:03-3475-5619 E-mail:info@jaacc.jp 著作物の転載・翻訳のような、複写以外の許諾は、直接本研究所へご連絡ください。